

JICA教材を作ってみた！使ってみた！

JICAでは、子どもたちが世界の現状や課題、国際協力などについて知るのに役立つ、開発教育・国際理解教育のためのさまざまな教材を制作しています。

今回は、その中でも授業でそのまま活用できる最新の映像教材「水と世界」について、JICA地球ひろばの制作担当者(当時)、そしてこの教材を使った授業を行い、「[映像教材を授業で使うヒント](#)」の動画でも紹介されている先生方にアンケートでお話を伺いました。

はじめに、映像教材「水と世界」の制作を担当された、元JICA地球ひろば推進課職員の八星 真里子さんに、この教材を作るきっかけや、その想いを伺いました。



八星真里子さん

海外に行かねば、国際理解は教えられないわけではありません。渡航経験を問わず、世界と教室を繋げられるツールを作りたい、と思いこの教材を作りました。世界をつなげる資源であり、また単元として取り扱いやすい「水」をテーマにし、日本より進んでいる/遅れている、その両面があるルワンダを舞台にしています。

また、この教材に「答え」は用意していません。先生と生徒と一緒に、映像を見ながら気づいたことを話し合ったり調べたりする中で、それぞれに「意味」を見出してほしいと思います。



撮影時のびっくりエピソードも！

村落部の少年が水くみのために道なき坂を進むシーンがありますが、下りも上りもその足の速いこと！トライアスロンで鍛えているカメラマンがやっと追いつけたくらいの速さでした。子ども達のたくましさには圧巻です。

映像教材「水と世界」を使い授業を行なった3名の先生方に、きっかけや授業の流れ・成果をアンケートで伺いました。



〈小学4年生/社会〉

京都市立向島秀蓮小中学校 堀川 紘子 先生



- 授業をやろうと思った「きっかけ」や、その授業で児童や生徒に伝えようとした「メッセージ」は？

蛇口をひねれば、安全な水が出てくるのが当たり前を送っている子どもたちにとって、ルワンダに暮らす子どもたちの姿は、「当たり前」を見直すきっかけをもたらしてくれると考えました。

- 実施した授業内容や流れを教えてください。

- ①私たちは普段生活の中でどれくらい水を使っているか予想する。
- ②ルワンダのフィシーくん家族が使う水の量を予想し、「水と世界」を視聴する。
- ③世界の水の状況がわかる資料から、世界中で起こる水に関わる問題と自分たちの生活との関わりについて知る。
- ④「水問題」に対して自分たちにできることを考える。

- 授業を实践したことで得られた学び・経験、児童の反応は？

「遊ぶのが好きなのは一緒だ！」

子どもたちは「水を手に入れるのに苦労しているから、きっとそこに暮らす子どもたちも辛いだろう」と予想していました。しかし、映像教材に映るルワンダの子どもたちは、身近にあるものを生かして遊び、笑顔に溢れていました。自分たちの予想とは違う姿に驚きながらも、フィシーくんに共感することで、彼らが直面する水問題に対しても関心をもち、自分たちにできることを考えようとする姿が見られました。数字からでは想像するのが難しいことも、映像資料だからこそ感じる事ができたと考えています。

「水と世界」映像教材はこちら(外部サイト: You Tube)→[世界をめぐる水\(水の循環\)](#) / [ルワンダってどんな国?](#) / [ルワンダの都心部の子ども的一天](#) / [ルワンダの村落部の子ども的一天](#) / [海をわたるプラスチックごみ](#)

2

〈中学1年生/地理・総合学習〉

大阪市立水都国際中学校・高等学校 美鳥 佳介 先生



- 授業をやると思った「きっかけ」や、その授業で児童や生徒に伝えようとした「メッセージ」は？

国際理解教育としてSDGsの目標6「安全な水とトイレを世界中に」を扱っていたことがきっかけです。現地の人々、国際協力に関わる人々のリアルな声を聞き、問題の本質を捉え、表面的ではない国際協力のあるべき姿を考える場を提供したいと考えました。

- 実施した授業内容や流れを教えてください。

生徒それぞれが持っている「アフリカ」や「国際協力」のイメージを全体で共有した後、近代的なアフリカの映像や映像教材「水と世界」を見ました。予想と大きく反するイメージをもとに「安全な水」がないことによる問題を、ロジックツリーで分析し、グループごとにその内容を共有しました。またそれらの問題にアプローチするための「国際協力」の形について、授業前のイメージと比較しながら、捉え直しました。

- 授業を実践したことで得られた学び・経験、生徒の反応は？

生徒たちは、自身の考える国際協力の形が、現地の人たちからすると善意の押し付けになる可能性もあるということを知り、「水」の問題だけに限らず、課題解決のためのアクションプランを具体的に考え出すスキルを育むことができました。

- 映像教材を使って今後やってみたい授業や活動アイデアは？

日本で「安全な水とトイレ」の恩恵を享受することができている理由、その仕組みと歴史について学びを深め、生徒が「水」に関する「国際協力」のプロジェクトを進めていく授業を行ってみたいです。

3

〈高校3年生/英語〉

愛媛県立土居高等学校 越智 由佳 先生

- 授業をやると思った「きっかけ」や、その授業で児童や生徒に伝えようとした「メッセージ」は？

卒業後、約半数の生徒が、地場産業の紙に関する企業に就職する本校。関わる製品は世界中に輸出され、職場には海外からの同僚も増えています。授業では、英語力だけでなく、グローバルな視野を身につけて欲しいと思っています。

- 実施した授業内容や流れを教えてください。

ルワンダのイメージを英語で表すことや、ポリタンクの水を運ぶ疑似体験から始めました。ルワンダの少年の1日を映像で見てストーリーを作り、SDGsの各ゴールを念頭に彼の暮らしを振り返りました。その後、水分野の国際協力活動中の富田さんの動画を視聴。「日本のやり方を押し付けるのではなく、現地の人たちが続けられる方法を共に考える」姿勢に、国際理解のあり方についても話し合いました。

- 授業を実践したことで得られた学び・経験、生徒の反応は？

ルワンダの映像からは、「日本より進んでいるところがある」「笑顔で友達と1冊の教科書を見ている姿に豊かさを感じる」「水の衛生面は心配」など、この国の豊かさと課題に気づきました。「私たちはもっと水を大切にしないで」と、自身の生活を振り返った生徒もいました。



映像教材「水と世界」を使った授業では、どのクラスも、子どもたちは「イメージと違った」という発見があったようです。他方、学年や教科、置かれている状況に合わせ、自分の生活を見直す、できることを探る、国際協力を考える、将来を見据えて自分と世界をつなげるなど、それぞれの学びを深めていくことができます。国際協力や開発教育、国際理解教育を知っている・知らないにとらわれることなく、ぜひ映像教材をご活用ください。

その他のJICA映像教材は[こちら](#)をご覧ください

JICA 地球ひろば